

児童発達支援センターみつばすみれ学園 支援プログラム

作成日 2024. 8. 1

事業所理念 自分らしく生きる ~共に在り、共に育ちあう~

支援方針 一人ひとりの子どもに合わせ、家庭生活・社会生活が営みやすくなるように、療育支援の提供を行う

営業時間 8:30~17:15 (休園日 土・日・祝日、年末年始)

クラス名	あゆみ	ふたば	つぼみ	さくらんぼ	ホッピング	
対象児童	2歳児から5歳児 運動機能に課題を持つ児童の生活スキルの獲得を課題とする(医ケアを必要とする児童も含まれる)	3歳児から5歳児 生活スキルや人とのコミュニケーション手段等の習得を課題とする	2歳児 集団参加の機会を提供し、生活スキルの獲得を課題とする	1歳児(満1歳以上の0歳児含む) 集団参加の機会を提供し、生活スキルの獲得を課題とする	3歳児から5歳児 (幼稚園・保育園に在籍中) ルールや人との関わりを課題とする	
療育提供時間	9:30~14:00または 9:30~15:00	9:30~14:00または 9:30~15:00	9:30~14:00	9:30~14:00	14:45~16:00	
利用形態	親子登園または単独登園	親子登園または単独登園	親子登園または単独登園	親子登園	単独登園	
送迎	希望者には送迎あり(通所バスによる自宅付近からの乗降車。または、14時降園時の最寄り駅までの送りバス)				送迎なし	
支援内容						
本人支援	健康・生活	健康的な生活を送るための体力づくり 体調管理 基本的な生活習慣の獲得 給食の提供 生活リズム調査の実施				
	運動・感覚	毎朝の体操 感覚遊具を使用した遊びの提供 戸外活動の機会を設定 療法士または作業療法士の個別療育が必要な児童には専門的支援を行う			理学	体を動かす遊び、感覚遊具、感触遊び等の提供
	認知・行動	様々な活動を提供し、興味や意欲を引き出していく (園庭遊び、体操、感覚遊具、読み聞かせ、音楽リズム、描画、感触遊び等)				
	言語コミュニケーション	生活の中で自身の気持ちや要求・拒否を人に伝える手段を獲得していく。安心できる環境の中でのびのびと自己表現を行う。他者の要求や発信に気が付き、受け入れたり、対応する力をつけていく。				人とのやり取りを楽しみと感じ自ら進んで表現したいと思える
	人間関係・社会性	保護者以外の大人や同世代の児童との関係を持ち、人との関わりを増やしていく。他者とのやり取りを楽しみ、必要に応じ助けを受け入れることも経験していく。様々な遊びや活動の体験を通じて、集団生活のルールを知り、ルールを守って参加できる力をつけていく		保護者との関係性を安定させ、安心できる関係性を作る支援		小集団の中で自信をもって活動する経験やルールに沿って参加する経験を重ねていく
家族支援	家族の不安や困りごとへの相談や支援を行い、必要な情報提供を行う 保護者懇親会などの機会の提供 個別面談 保護者対象勉強会の開催 保護者の会(みつばの会)への支援と連携					
移行支援	年齢に応じた社会体験を経験できるように、必要な合理的配慮や支援を提供していく					
	交流保育(地域の保育園との定期的な交流)や公的機関への園外保育(児童センターや図書館等)などを通じて社会参加の場を広げていく。就学についてや学校見学などの情報提供などを行っていく。			生活リズムを整え、移行に向けた体力づくりを支援	個々の通園先の園と情報共有を行い、適切な支援を提供する	
地域連携・地域支援	併行利用先の幼稚園や保育園と情報を共有する。また、必要に応じて職員を派遣し、療育の知識や技術を提供していく。関係機関との連携や関係者支援会議等に参加 保育所等訪問支援事業の実施 埼玉県からの障害児等療育支援事業の受託による訪問や施設支援事業の実施					
職員の質の向上	派遣研修や内部研修を通じ、適切な支援の提供ができるよう技術や知識の取得を行う(障害理解、虐待、人権、児童発達等)					
主な行事等	夏祭り 運動会 発表会 卒園式 他季節行事(七夕、豆まき等) 土曜日開所(年数回) 保護者と施設間連絡会(年数回) 保護者懇談会(年1回)					